

「地域と交通をサポートするネットワーク in Kyushu (Q サポネット)」の取り組みについて

大井 尚司 大分大学経済学部門 教授

1. はじめに

2024年の九州支部「九州まちづくり賞」において、九州で地域・交通問題を考える勉強会組織「地域と交通をサポートするネットワーク in Kyushu (以下Q サポネット)」が受賞した。本稿では、その成立経緯や活動実績を紹介することで、各地での活動の参考になればと考えている。

2. Q サポネットについて

(1) 設立経緯と趣旨

当団体の設立は、交通事業者や自治体などから挙がっていた『困った時の相談窓口』が少ない』との声を発端としている。九州の地域交通が内在する様々な課題に行政・交通事業者・コンサルタント・研究者等が連携して向き合うべく、有志により約2年間の準備期間を経て設立に至った。

(2) 活動内容と実績

2010年7月に第1回を開催以後、おおむね年2～最大4回の勉強会を継続してきた。本年度で設立14年目を迎え、2024年6月までに計34回の勉強会・交流会を開催、延べ参加者数は2,169人に達している。

取り上げる内容は幅広く、地域公共交通に関する制度・実践事例、鉄道事業者と連携したフィールドスタディ、自転車活用、子育て、DX対応、都市計画や地域計画に関する話題などがある。毎回の構成は座学・フィールドスタディとワークショップをセットにしており、各立場を織り交ぜたグループ編成により自由な意見交換を行っている。福岡市での開催を主としつつ、北九州・久留米・熊本・大分・鹿児島と地方開催も実施した。

参加者は、行政担当者をはじめ、交通事業者、地域住民（地域団体、NPO、観光・経済団体等）、コンサルタント、研究者・学生など多様で、リピーターも3割超える。

3. 活動の紹介—近年の代表的な開催事例から

活動内容が多岐にわたるため、ここでは鉄道事業者と組んで開催した事例を紹介したい。

2018年に肥薩おれんじ鉄道・鹿児島県・熊本県の協力で、2024年は甘木鉄道・大刀洗町・朝倉市の協力で、鉄道沿線のまちづくりに関する勉強会を実施した。鉄道の乗車と現地途中下車によるまちづくりの現地見学を行い、それを受けて座学での勉強会・グループワークを実施した。地方鉄道に関心のある層のみならず、交通事業者やコンサルなど含め全国各地からの参加を得た（写真1、2）。



写真1 甘木鉄道開催時
(現地視察後の鉄道利用)



写真2 肥薩おれんじ鉄道開催時
(グループワーク)

4. 活動に対する評価と今後について

(1) 活動に対する評価

学会や外部媒体での活動紹介を行ったほか、外部団体との連携も継続してきた。さらに、国土交通省九州運輸局との連携構築により、同局のシンポジウムの共催や内容構成への助言、世話人の登壇などで貢献してきた。

その結果、2018年度には九州運輸局交通政策関係表彰を受けたほか、2023年度は共創モデルの人材育成プロジェクトで国土交通省補助事業に認定された。それらの貢献が今回の九州まちづくり賞の受賞にもつながっている。

また、関わっている世話人は九州はじめ各地で地域公共交通政策に業務等で携わっており、業務実績の増加やスキル向上、地方自治体のレベルアップにもつながっている。

(2) 今後について

設立当時の世話人が経験を経て昇進する中、活動への参画が難しくなってきている。また若手の参画が各社の採用状況や事情もあって進んでおらず、後継人材育成の問題も課題となっている。活動資金確保や組織の持続可能性について検討しつつ、全国でも導入できるような人材育成のプラットフォームとして機能するよう今後も活動を継続したい。

なお、活動については「Q サポネット」Facebook ページや参考文献で紹介しているので、関心のある方はご覧いただければ幸いである。

<参考資料>

- 1) 竹隈史明・神谷翔・金丸晃大・梶田佳孝・大井尚司(2012): 総合交通政策推進へ向けた「地域力」による人材育成について—九州における「Q サポネット」の取り組みから—, 土木計画学研究・講演集 45号 (CD-ROM)
- 2) 国土交通省政策統括官付(2011): 総合交通メールマガジン第37号 <https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/soukou/soukou-magazine/37.pdf>
- 3) Q サポネット Facebook ページ <https://www.facebook.com/qsuppo/>